

## 『大阪市街全図（附著名諸会社銀行商店案内）』

大正2年 後藤七郎右衛門（製図） 大阪毎日新聞大正2年3月13日号付録

73 cm×107 cm 関西大学専任教員研究室資料

当時の大阪毎日新聞によれば、大阪市内及び府内、神戸、奈良、京都、伏見の月ぎめ購読者に無料配布、地図だけの販売もした。「附著名諸会社銀行商店案内」とあるように、地図上に「著名諸会社銀行商店」と個人名が赤字で印刷される。料金を払った会社などが掲載されているのであろうが、広告を募る記事はまだ見つからない。

裏面に索引、広告が掲載されている。広告は、「南海鉄道」、「阪神電車」、「箕面電車」（現阪急）、「阪堺電車」（汐見橋から浜寺まで海岸沿いに路線があった。宿院から大浜までの支線もあった。）と大阪市電の公共交通と、現在の「クラブコスメチクス」である「中山太陽堂」、現在も栗おこしで有名な、あみだ池の「大黒」など。

この地図の特徴のひとつは、個人名が記載されている点である。「岩本栄之助」は説明するまでもない。その他の人物を調べると、名の知れた「相場師」が多数いた。立売堀の「山本重蔵」は、綿花商「山重」の主人で、女優山本富士子の祖父という。山本富士子は立売堀の生まれというが、ここが生家だろう。阿波座の「高田松太郎」は、フレンド協会の牧師らしい。平野町の「岸田市兵衛」は裏面に広告を掲載しており、栄えた薬種問屋の主人。劇作家の菊田一夫が丁稚奉公した店で、小学校も終わらぬうちに「売られた」店としても知る人ぞ知る。天王寺の「森下博宅」は、仁丹の社長宅。

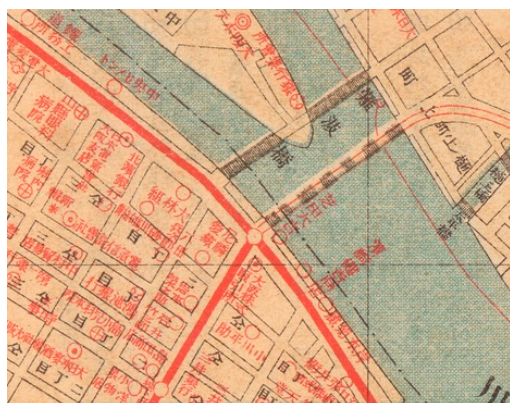
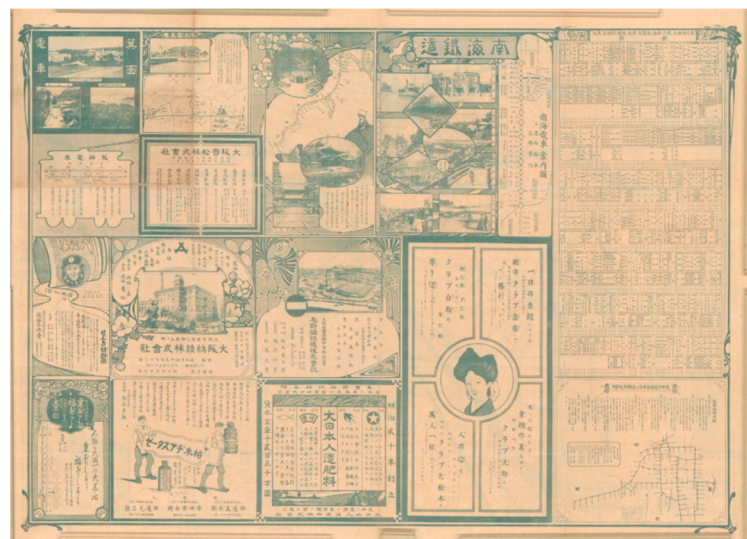
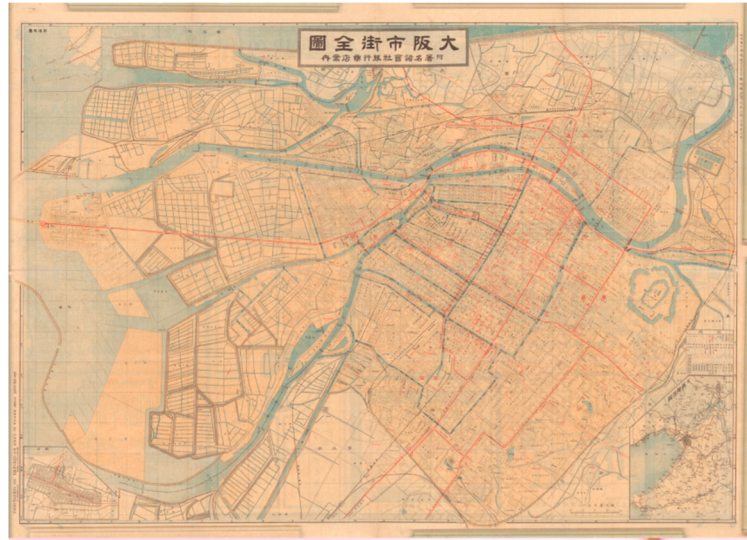
橋の名前が詳しく書かれ、難波橋はふたつある。「難波橋」と記載されている橋は古いほうで、その東側は市電の計画路線が敷かれている。明治45年から市電建設の反対運動がこの地で起こり、大正4年に東側に新しい難波橋が完成する。大正2年のこの地図では、架設工事中の橋が描かれている。中之島が、まだ新しい難波橋まで伸びていない。

昭和4年まで存在した関西大学福島学舎の名もある。「関西甲種商業学校」は、現在の関大一高。この年、大正2年4月に開校。開校前に地図に記載されている。西側の「大阪商業学校」は「私立大阪商業学校」で、現在の大商学園高校。天王寺の「文師」は、現在の大阪教育大学天王寺校舎。玉造の「ウキルミナ女学校」は大阪女学院高校。「プール女学校」、「梅花女学校」など私立学校は、広告料を払ったのだろうが、公立学校は名前がない。かつては梅田の北、北野町にあった現北野高校でさえ「文中」である。

谷町の「薄医院（外科）」。相撲の「タニマチ」の由来の医者だ。江戸堀南通二丁目の「猪飼史郎」は、宮武外骨の「滑稽新聞」発行を支援した薬舗の社長で、「ビートル散」の販売で著名であった。

興味尽きぬこの地図は、カリフォルニア大学バークレー校図書館「Japnase historical map」でネット公開されている

<http://japanmaps.davidrumsey.com/luna/servlet/privateCollections>



・北浜（新旧の難波橋がある）



・関西大学福島学舎（甲種商業）